東日本大震災における津波避難の呼びかけに従わなかった事例の収集・分類

Classification of Case Examples Not Following the Persuasion of Tsunami Evacuation during the Great East Japan Earthquake

○藤本 一雄[1]，戸塚 唯氏[2]，坂巻 哲[3]
Kazuo FUJIMOTO[1], Tadashi TOZUKA[2] and Satoshi SAKAMAKI[3]

[1] 千葉科学大学 危機管理学科
Department of Risk and Crisis Management, Chiba Institute of Science
[2] 千葉科学大学 教職・学芸員センター
Center for Teacher Training and Museum Education, Chiba Institute of Science
[3] NTTファシリティーズ総合研究所
NTT Facilities Research Institute Inc.

In order to obtain the basic data for persuading the people who are not following the call for tsunami evacuation, we collected the stories of victims and rescuers of the tsunami during the Great East Japan Earthquake. Extracting from the stories, we obtained the case examples not following the persuasion of tsunami evacuation. We temporary classified the examples into three factors promoting and preventing evacuation, such as risk recognition, decision-making of evacuation, and social factor.

Keywords *: tsunami evacuation, persuasion, the Great East Japan Earthquake*

１．はじめに

東日本大震災時の住民の避難行動を見ると，避難するきっかけとして，地域における避難の呼びかけが大きな要因であったとされている [1]．その一方で，避難の呼びかけに従わなかった事例も報告されている．例えば，「消防団員は，住民を安全な高台に避難させるため，地震発生直後から消防車両等により受け持ち区域を回り，住民に対しぎりぎりの段階まで避難の呼び掛けを行いました．／(中略の意，以下同じ)これにより，多くの住民を救いましたが，直ちに避難しない住民を説得したり，要介護者の避難介助を行ったため，逃げ遅れ，殉職者が発生しました」[2]，「避難指示に従わない人がいたために，自分が津波に巻き込まれそうになった．／消防車で広報し避難誘導活動を行ったが避難指示に従わない人達がいた為に自分が避難するのが遅れてしまい津波に呑み込まれた」[3]などである．

関谷 [4]は，津波避難を促進するには，避難すべきとの「心構え」を事前に説くだけでは十分でないという指摘とともに，災害時における「命令口調」での避難の呼びかけの効果も限定的であると指摘している．今後発生する津波災害での犠牲者を減らすには，事前の「心構え」や災害時の「命令口調」が通用しない者への対応策の 1 つとして，避難の呼びかけに従わない具体的な原因・理由を把握した上で，どうすれば短時間で説得できるかを事前に検討しておくこと(例えば，避難誘導役と住民役による避難説得に関するロールプレイング(役割演技)など)も必要ではないだろうか．

避難の呼びかけに従わない原因・理由を知ろうとしたとき，実際の災害時における避難行動(避難する・しない)の意図そのものは，当然のことながら，平常時には測定することができない [5]．そこで，実際の災害時において，どのような原因・理由で避難の呼びかけに従わなかったのかを把握することが求められる．東日本大震災での住民の避難行動を明らかにするために，岩手・宮城・福島県の被災者 870 名に対する面接調査が行われている [6]．質問項目の中で「すぐに避難しなかった理由」も尋ねられており，「自宅に戻ったから」「家族を探しにいったり，迎えに行ったりしたから」「家族の安否を確認していたから」との回答が多く挙げられているものの，より具体的な原因・理由までは知ることができない．中村・中森 [7]は，東日本大震災の津波避難者への聞き取り調査を行い，個別の具体的事例を紹介しているが，聞き取り調査の対象者が 50 人と限られている．そこで，より多くの事例に基づいて，避難の呼びかけに従わなかった具体的な原因・理由を把握する必要があると考える．

以上を踏まえて，本研究では，東日本大震災での多数の津波避難に関する体験談を収集し，その中から避難誘導時に説得を要した具体的な事例を抽出・分類することを試みる．

２．避難の呼びかけに従わなかった事例

避難の呼びかけに従わなかった事例については，東日本大震災の被災地を中心に編集・発行されている体験談から集めることとした．その際，藤本･戸塚 [8]で用いた「被災者」の証言をまとめた体験記 [9)-35)]のほかに，今回は，消防・警察等の「救助従事者」の証言をまとめた体験記 [36)-41)]も加えて，合計 33 編の体験記を用いることとした．各体験記に収録されているそれぞれの体験談の中から，避難の呼びかけに従わなかった事例に関連する箇所を，文章中の原因・理由の接続助詞(から，ので)などを参考にして抜き出したところ，合計 86 人分の事例を集めることができた．

表 1　避難の促進・抑制要因

①危険認知を促進・抑制する要因	1. 災害特性（可視性、予測可能性） 2. 災害警報の有無・内容・伝達メディア 3. 災害経験（経験の順機能・逆機能） 4. 正常化の偏見 5. 知識・災害文化 6. 脆弱性の認識（自宅の標高、家の古さ、危険との距離） 7. 社会属性
②避難の決定・実行を促進抑制する要因	1. 移動手段の有無・避難先 2. 避難計画の有無、避難の習慣化 3. 災害弱者の存在 4. 家族の集合状況 5. 災害文化 6. ペットの存在 7. その他（発災日時、役割葛藤、災害観、再入場関連の要因）
③社会的要因を促進・抑制する要因	1. 地域社会の活力と関与度 2. 防災機関（市町村・消防等）の準備・資源 3. その他（緊密な親戚・友人関係、家族の存在）

つぎに，各事例をタイプ別に分類することを試みた．中村 [42]は，避難の促進・抑制要因を，①「危険認知」，②「避難の決定・実行」，③「社会的要因」に分類・整理している（表 1）．さらに，①「危険認知」の中の「4. 正常化の偏見」に関しては，避難しない住民の心理として，信じない・拒否する態度，楽観視，知識の欠如，他人事と考える心理，行動の消極性，いつもの行動を継続しようとする傾向，狼少年効果に細分類している [42]．

そこで，表 1 の各種の要因を参考にして，避難の呼びかけに従わなかった事例を分類した．「正常化の偏見」を分類する際，「信じない・拒否する態度」と「楽観視」は判別することが困難であったため，ひとまとめにして扱うこととした．「いつもの行動を継続しようとする傾向」に関しては，地震被害の片付け等を継続しようとする事例もこのカテゴリーに含めることとした．また，1 つの事例（体験談）の中に複数の要因が含まれる場合もあるが，そのような場合は 3 人の研究者の合意で主要な要因を決定し，そこに当該の事例を分類した．

以下に分類した結果を示す．併せて，避難の呼びかけに従わなかった原因・理由として判断した箇所を下線で示してある．

① 危険認知

①-1 災害特性

・地震の時，近所の人や民生委員が「津波が来るから避難してください」と，言いに来てくれたので，○○小学校へ避難した．津波は来ないし，普段飲んでいる薬も忘れてきたので，自宅に戻った．

・「津波が来るから避難するように」と，防災無線で呼びかけがあった．／近所の人に誘われて第一波を堤防の近くまで見に行ったが，道路も濡れていなかったので「これくらいなら大丈夫」と，思い家へ戻る事にした．

・警報が聞こえたので，○○小学校へ避難し 3 階から海を見ていた．「もう大丈夫だ」と，思って，4 時半に自宅に戻り，津波の写真を撮るためまた海に行った．

・川の近くには，呼びかけても避難せず津波を見ようとしている人がいた．

・消防車から「津波警報が出ていますので避難してください」と呼びかけたのがよかったと，後で地区の住民から言われた．ただ，広報が来たから，すぐに避難ではなかったと思う．そのうちに津波が見えたから避難したと思う．何も呼びかけをしなければ家にいたと思うが，広報したので外に出て気づいたのではないか．今までも何回か津波警報が出て広報し，いくらかの潮位変化はあったが，今までは逃げなかったから．

・「大津波警報が発令されました．急いで高台に避難してください」と広報を実施した．しかし前々日の地震の影響からか防潮堤上にとどまり，海の様子を眺める人や写真撮影するなど避難する素振りを見せない人もいた．

①-2 災害警報の有無・内容・伝達メディア

・海上の養殖施設に船が 1 隻見えた．その人は携帯電話も所持していない人で，積載車を海に近い高台につけて，その船に向けてサイレンをしばらく鳴らし続けた．あとから聞いたら，そのサイレンには全く気づかなかったという．

・津波の避難を呼びかける防災無線を聞き，慌てて近所の人達と海岸から離れ，大通りより上の方に逃げた．しかし，1 時間位経ち，避難した人たちが自宅へ帰って行ったので，「津波が解除されたのだ」と思い，自分も家に戻ってしまった．

①-3 災害経験

・私の「大津波が来るとのこと，早く逃げましょう」という声にも，「俺は逃げない」と何度言っても応じません．彼（主人）の頭の中には，50 数年前のチリ地震のことがインプットされているのです．／主人の祖父や父も逃げることはないと頑張っていたので，彼もその姿を思い出していた様です．

・○○の人は，阿武隈川があるので津波は川を上がって内陸まで津波は越えてこないと思っている人が多かったことも事実です．さらにチリ地震津波の際も来なかったから大丈夫だと思っている年寄りも多かったです．

・高齢者の中には今まで津波はきた事がないから大丈夫だ，俺は残るから「お前達だけ逃げろ」と言っていると訴える家族もいました．

・地震発生後，○○さん（81 歳）は自宅の前に立っていた．近くの人が声をかけると「ここまで津波が来たことはない．来るわけがない」と答えたという．遺体は自宅近くで近所の人が見つけた．ヘルメットをかぶり，手にラジオを持っていたという．

①-4 正常化の偏見

信じない・拒否する態度，楽観視

・ポンプ車を走らせたり，所々で停めたりしながら，握り締めたマイクに向かって叫び続けた．呼びかけを聞きつけた人々が，あちこちから姿を現した．津波が来るということは分ってくれたのだろうが，「ほんとうかな？」といった表情で自分たちの動向をうかがうだけで，誰も逃げようとする気配は見せなかった．

・地区によっては，道路から内側は津波は来ないだろうと思っていた人も多く逃げなかったところもあったようです．／中には「絶対津波は来ない」とがんと動かない年寄りもいました．

・しかしこの切羽詰った状況の中で，義父はどうしても家にいることを断固として譲らなかったのです．どんどん足元に水が流れてきていたのでやむなく義父を家に残し車を走らせました．

・テレビの情報で「津波が来る」ということは分かっていたので，実家にいた父に避難するように言ったんですが，父は「ここまで津波が来るはずがない」と言い張って，避難しようとしないんです．

・うちの家，鉄筋 3 階建てなの．ちょうど，あの日は弟が遊びに来ていて，親父は家にいた．本当は早く逃げれば良かったんだけれども，年寄りっていうのは変な自信があるんだなあ．「逃げない」っていう．水が来たのを見てから 3 階に上がったんさ．

・○○さん（祖父，72 歳）は「家に残る」と言い張った．腕を引っ張っても動かない．

・私は一旦家に戻り，車で別のお年寄りを訪問すると，

一人は「避難所には行かない．ここにいる」と言い，もう一人も娘さんが来て「どうする」と聞くと，「ここにいる」と言うのです．「こんな格好では外に出られない．だからここにいる」と言うお年寄りもいて，避難を嫌がっていました．

・中には「俺はここで死ぬからほっといてくれ」という人もいましたが，強引に説得，というよりは強制的に避難させたこともありました．

・叔父さんの家にもう一度行って「津波が来るから避難しよう」って言ったら「わしはここで死ぬから，いい」って言うんです．それを説得する時間がない．

・自宅に帰ると，当時 87 歳の母親は，昼寝中だったが「死んでもいいから，避難しない」という．昭和8年の津波を経験した親の云うことかと，がく然としましたが，無理矢理に裏の高台に避難させました．

・「津波がそこまで来ましたよ」って言ったら，「いやあ，ここまでは来ない，大丈夫」って．

・「ばあちゃんも早く逃げて！」って，慌てたように言うのですが，私はここまで来るはずがない，と思って，外を眺めていました．

・地震直後に兄が車で両親を迎えに行ったが，「ここまで津波は来ない」と言って逃げなかった．3 月下旬に母が遺体安置所で見つかった．父の行方はわからない．

・親戚の家に着くと，避難するように強く呼びかけた．「津波だから逃げろよ！乗って」と．でも，「大丈夫だから．津波が来たら逃げるから」って．

・まだ避難しようとしない近所のお年寄りに向かって主人が怒鳴ったんです．／その人が，大丈夫でしょう！って私たちに言いながら，再び，家の片付けを始めたから余計に腹が立ちました．

・私は，主人に「早く逃げないと津波が来るから」と言ったら，主人は，「大丈夫だから」と言って避難するようすもなく，２階へ上がって，海岸のようすを見て「船のことも気になる」と言っていました．

・しばらくして甥っ子の嫁が「避難しよう」と車で迎えに来た．「なーに，大丈夫だよ」と言うと「来なくて幸い，念のため避難してよう」と促され，着の身着のまま，バッグだけを持って高台にある親戚の家へ避難した．

・電話に出た父によれば，〇〇の人たちは全然避難している様子がなく，父も「大丈夫」とのんきに構えているので思わず頭に来て「お父さんはいいけど，子どもを避難させて」と電話口で怒鳴っていました．

・目の前まで水が来ているのに避難しない住民がおり，その住民を避難させようと団員が水の中に入って無理矢理引っぱって来たとのことだ．／また，「避難してください」と言うと，「はいはい」と返事はしているが来なかった人もいる．

・「津波が来ると放送している．避難したほうがいい」と孫娘．／「多少の津波なら大丈夫だろう」と油断していたのだ．

・だけど，あんな大きい津波が来るとは思わなかったから，甘く見てた．息子が「逃げなきゃなんないよ！」って言いにきたけど，それでもお父さんと二人でゆっくり，逃げる気もなかったのさ．

・消防の人が「大きな津波が来てるからみんな逃げろ！」と言っても，「はいよー」なんて返事をして，本当に来るなんて思わなかった．

・しかし立ち話している人たちには緊張感がなかったのか，「大丈夫，大丈夫」と，真剣に話を聞いてくれる人はいませんでした．

・じいちゃんは若布をする納屋で作業をしていたが，地震で這って逃げて屯所のところにいた.「家に来い」と声をかけたけど「何ともないから」と言って動かなかったので，「何かあったら〇〇の方に逃げろよ」と言って自宅に戻った．

いつもの行動を継続しようとする傾向

・家の前では 10 人前後が水道工事をしており，まず彼らに「避難しろ」と声を掛けた．しかし「今やっている箇所が終わったら」と危険の認識がない．「津波は必ず来る」と断言し追い立てるように避難を促した．

・バス会社で運転手を務めていた〇〇さん．いつもの路線バスを運転中に地震に遭遇した．／すぐに乗客に避難を呼びかけ，バスを降りてもらった．しかし，アルバイトに行かなくてはいけないと言って席を立とうとしない女子高生がいる．〇〇さんが「頼むから避難してくれ」と説得したときには，目の前に津波が見えていた．急いで逃げ出した女子高生と〇〇さん．

・〇〇さん（保育所の調理師）は，おやつのホットドッグを調理するのに使った油が心配で「残らせてください」と申し出ていた．

・そしてすぐ，昼寝をしていたお袋さんを起こしました．お袋さんは昼寝をするのが習慣です．「このまま横になっているよ」と渋るのを説得して，パジャマから普段着に着替えさせて連れ出しました．

・「逃げよう」と言ったが，母（74 歳）は「ここまで来ない」と言い，倒れた家具などの片付けを続けた．／水が引いた後，少し先に母が倒れていた．

・2 棟中，1 棟の古いハウスの方が壊れていました．／ハウスの手入れを今やるより，まずは避難することの方が大事だということを夫に伝えました．しかし夫はすぐに手を休めることはなかったんです．

・無心に片付けをするおじさんを，一刻も早く避難するようにおばさんと説得し続けました．しかし，待ってけろ！倒れた花瓶だけでも片付けたいから！と，すぐには言うことを聞かなかったんです．

・元気そうに大丈夫だ！ここからは避難しないよ！って言いました．その理由は，亡くなったおじいさんの位牌が，地震で崩れた家財の下になって，どこに行ってしまったのかわからなくなっていたというものでした．

・近所の人が「〇〇に逃げるから，お前も早く来いよー」と叫びながら走って行くのを横目に，梯子をかけてタンクを直し始めました．そこに，車を高台に置いて戻ってきた女房が「何やってるの」と慌てて飛び込んで来た．2 人で家を出たら，水がもう目の前まで迫っていました．

・近所にはうちの貸し家が 6 世帯あるから，みなさんに「早く逃げましょう」と声かけたけど，その人たちは逃げようとしなかったね．本棚だの神棚だの，部屋の中にばらばら落ちて散乱したものを整理する気にばかりなって，誰も私に付いてこなかったんです．

・その 1 人の職員に，早く避難するように注意されました．しかし片付けがなかなか進まず，すぐに避難できる状態になかったので片付けを続けていると「片付けはいいから，命が大事だから！」と口調が強くなり，私達もそれから避難準備を始めたのです．

・15 時 10 分，やっと父が巡回から帰って来ました，早く避難しようと促しても何故か父はおっとりして家の片づけを始めたのです．避難しないと危ないと急かしても，体育館の様子を見て来ると体育館へ．／でも，皮肉なことに父の死に目に立ち会えた

①-5 知識・災害文化

・お巡りさんが「そっちの方へ行ぐな．津波がくるぞ」と呼び止める声が聞こえた．／大津波警報が出ていることは頭にあった．／津波は川の水が引いてから襲ってくると聞いていたので，まだ大丈夫と思った．

・呼びかけは聞いてくれていたんでしょうけど，津波が来るっていう危機感があまりなかったように思います．「○○の浜は遠浅で津波が来ない」という言い伝えがあったんです．

①-6 脆弱性の認識

・3 メートルの高さの津波が来るっていうことだったから，防潮堤は6メートルかなんぼかあるから大丈夫かなと思ったので．

・揺れのあと，家の中の片付けをしていると，職場から戻ってきた息子が叫んだ．「津波が来るから逃げろ」って．／消防団員の息子は，急いで家を出て行った．しかし，○○さんはすぐには避難しなかった．近くに高さ 8.5 メートルの防潮堤があったからだ．

・「津波が来ると放送している．避難したほうがいい」と孫娘．わたしも津波は来るとは思っていた．だが，逃げなかった．チリ地震津波(1960 年)で床上浸水した自宅を新築した際，土台を約 2 メートルかさ上げした．「多少の津波なら大丈夫だろう」と油断していたのだ．

・家は防波堤よりも高台に建っていたので，母親は津波が来ないと思い，地震が来た時はのんびりと海を眺めて母親は，サンダル履きの薄着でした．高台では親戚が津波が来たから逃げろと叫んでいても，暢気に海を見ていて，足元まで波が来てから波と競争して，何とか高台に逃げる事が出来て助かったから良かった．

・家に戻り，早く逃げようと何度もおじいさん(夫)に言いましたが，言う事を聞いてくれません．家の前にある防潮堤が数年前に嵩上げされていて，津波が来てもこれを乗り越えることはないと思っていたんでしょう．「それじゃ，私もここにいる」と言ったら，おじいさんが「お前が先に行ってろ．俺は体が軽いから，飛んで行っても逃げれる」って言いました．

・近所の人が「また津波が来るかも知れない」と，言うので，再び車で避難した．しかし家が心配でまた戻ってしまった．

・防災無線で「津波が来るから避難して下さい」と避難の呼びかけがあったが，店が心配なので逃げずに家に居た．

② 避難の決定・実行

②-3 災害弱者の存在

・突然，目前の石塀が歩道に倒れ，倒れてきた塀の家から，老夫婦が飛び出してきて，おばあさんは地べたに座り込み動けない様子でした．私はすぐさま，おばあさんの所へ行き「危ないから，こっちへ」と言って手を引いて誘導しようとしたところ，そのおばあさんは「私は大丈夫，危ねえからあんたこそ逃げな」と言うのです．

・しゃがみ込んでいるお年寄りに気付いた．「逃げないの？」って聞いたら，「もう歩けないから，気にしないでいいよ」みたいな感じだったんです．

・いっしょに逃げようと言っても，「階段を下りていくのが大変なので，私は 2 階にいるから大丈夫」と．

・おばあちゃんは足が悪く，杖をつきながらゆっくり歩くのが精一杯でした．「津波がくると思うから，早く避難しよう！」とおばあちゃんを避難するように説得しましたが，おばあちゃんはそれを拒みました．

・あとは，妹のところのお婆ちゃんは「逃げろ」って言ったけど，歳とっていて 90 歳近いの．娘さんが「逃げよう」って言ったら，そしたら「うん」って言ってたけど，逃げなかったらしいの．

・認知症の姑は，地震であることが判らず動こうとせず，「ウチに入る」と言い張るので，理解してもらうのに 30 分はかかり，そのまま庭にいました．そのうち，津波が来てボートが流されたので，家の中に戻りました．

・○○さん(14 歳)を救助するため，ポンプ車を道路わきに止めて大きな声をかけた．「○○乗れ，車に乗れ」と言ったんです．それでポンプ車に乗せて出ようとすると，外を指しながら「あそこにおじいちゃんがいるの」と言うんです．／○○さんの祖父・△△さん(85 歳)だった．△△さんは足腰が弱っていたため，自力で動けずにいた．

②-4 家族の集合状況

・おじいちゃん，おばあちゃんは，行かないと言って，10 分ぐらい押し問答した．孫らが帰ってきたときに，自分たちがいないと心配すると考えたから，避難をいやがった．

・私は足が悪くて動けないので，普段は押し車を使っていた．近くに息子がいたので，迎えにきてくれた．地震が来たがまさか，津波がくるとは思わなかったので，孫が高校生だけど，クラブに行っていて，帰ってくるから行かないと言ったら，息子に，「なに言ってんだ，孫は走れるけど，あんたは動けない，だからあんたを連れてく」と言われた．

・○○さんは，お年寄りのところを順にまわるが，避難させるのが難しい場合もあった．足の不自由な一人暮らしの女性のところに行ったんですね．ドアをノックして声をかけたところ，玄関までは来てドアを半分開けてくれたのですが，すぐに閉められてしまった．「この場所にいてはだめだよ，早く出てくれ」と呼びかけはしたんですが，息子さんが来るからとおっしゃって．

・近所の人が縁側に座っていた○○さん(母，81 歳)に避難するよう呼びかけると，「息子(本人，51 歳)が来るから」と動かなかった．自宅は流され，2 人の行方はいまだにわからない．

・妻(74 歳)に「家にいろ」と言って向かった．／近所の人の話では，逃げる途中，妻が家の外に立っていたので，「逃げて」と声をかけたが，家に入っていったという．何かをとりに帰ったのか，波を見て怖くなったのか，理由は分からない．妻が死んだのは「ここまで津波は来ないだろう」と思った私の過信だ．「逃げろ」と言っていれば，高台に逃げられたのに，私が心配で待っていてくれたのだろう．

・祖母は，留守で誰もいなくなるから，まずはお前たち二人で避難しなさいって言うんです．

・「○○さん，学校に避難しましょう」と近所の奥さんが呼びに来てくれたが，「子供(中学 3 年生)がまだ戻っていないので，私はここに残ります」と断った．

・防災無線では避難の呼びかけをしていたが，母親がデイサービスから戻るのを待ち，一緒に避難しようと思っていた．

・隣のおばチャンが来て「おらいの父様が逃げねえって動かないが」と言って来たんで，後ろの○○さんも来てくれて茶の間の窓から顔を出して，「オンツァア逃げねばだめだ一緒に逃げっぺし」と誘ったら「分った」と言って外に出て来たんですね．

②-6 ペットの存在

・三男(22 歳)を連れて逃げようとしましたが「犬と残る」

と聞きません．私もその時は「大丈夫だろう」と安易に考え，三男を置いて避難しました．

②-7 その他（役割葛藤，再入場など）

・お年寄りが「ここまでは来ない」と言って，若い人も一緒に避難しなかった．置いて逃げられない．
・逃げてくださいと，大きいの来るらしいですって言ったら「その先に一人暮らしのおばあちゃんがいるから，見てから逃げるから．大丈夫．そこだけ見てから，うちらも逃げるから」って．
・「お父さん，私は家にいるから．歩けないし動けないから，避難しても皆に迷惑を掛けるばかりだから．家に居るほうが楽だから．お父さんは行っていいのよ」と．そう言われたら１人で行ける訳がない．私も残る事にした．
・「（自治会）会長，津波来っから自転車そこにぶん投げで，俺と車さ乗って一緒に逃げっぺあ」って言うもんだから，「いや俺はだめだ，俺は家にカカア（妻）いるから俺ばり逃げるわけにはいがね，俺，家に戻ってカカアを連れてくるから」と言って途中から家に戻り，車を引っ張り出して○○小学校に避難することが頭の中にあったんです．／ところが考えてみると年寄りたちを○○小学校に置いて，自分だけ△△小学校に逃げるなんて立場上そういかないわけですよね．ともかくカカアと○○小学校に入ったんです．
・そして女房は車から降りてリュックを提げて，「トイレに行くから，もう行っていいから．じいさん，早く行ってね」と言って，家の中に入ったんです．
・「絶対，津波が来るぞ．何も持たずに車に乗れ」と，妻と車に乗り込む．しかし，妻は「冷蔵庫のドアを閉めてくる」と再び家の中へ．
・○○さんが「まだ少し大丈夫だろうから畳を上げてくる」と，港に近い自宅に戻ると言いだした．△△さんは止めるべきか迷ったが，○○さんには災害ボランティアとして全国で活動した経験があるので，心配ないと考えた．／しかし数日後，○○さんは自宅から約300メートル離れた場所で遺体で見つかった．
・「大きなのがくるぞぉ！来るぞぉ！」と，近所の爺ちゃんの大声がきこえたので，私が見に行ったら嫁さんが下の方に下りて行くところなので「何処へ行くの」と聞いたら「車を上げに行く」と言うので「今津波が来るよ！」と言っても耳も貸さず，歩いて下がろうとするので私は大きな声で「金さえ出せば，車は買えるが，命は買われない！」と怒鳴りました．
・親戚の伯母も亡くなった．伯母は私が高台へ避難する途中，伯父と二人で坂を下ってきた．すれ違うとき「津波が来るから避難して！」と二人に叫んだら，二人は「うん」と頷きながらも海の方へ行ってしまった．ワカメの仕事で使う道具を片付けに行って津波に遭遇し，避難したが間に合わず流されてしまったと後から伯父に聞いた．

その他（分類困難だったもの）

・恐怖心から泣きべそをかいて交差点の中で車を止めたまま動けないでいる女性などがおり，気遣いながら車を路外に誘導するのが精いっぱいでした．
・私は車で避難していた方たちに，車を置いて避難するよう呼びかけましたが，「車を捨て置いて行けない，どうしたらいいんですか」と訴えられました．
・渋滞で動かない車に乗っている人たちが，「助けてください，助けてください」と悲鳴をあげていました．「津波だから車から降りてこい！」と言ったんですが，降りてこなかった．

３．考察

今回収集した避難の呼びかけに従わなかった事例に関しては，中村 [42]の避難の促進・抑制要因のいずれかにほぼ分類できることを確認した．また，全体的に見ると，①「危険認知」，②「避難の決定・実行」に関する事例が多かったのに対して，③「社会的要因」に関するものは見当たらなかった．「社会的要因」が見当たらなかった理由として，社会的要因は，避難を促進する効果としては認識されるが，避難の呼びかけに従わなかったなど，避難を抑制する場合には，その効果が認識されにくいことが可能性として考えられる．

「危険認知」に関しては，「正常化の偏見」に関連する事例が多かった．その中では「信じない・拒否する態度，楽観視」「いつもの行動を継続しようとする傾向」が多く見られた．「いつもの行動を継続しようとする傾向」に関しては，平常時の業務を継続しようとするタイプと，地震被害の片付け等の作業を優先して継続しようとするタイプの２種類が見られた．

「避難の決定・実行」に関しては，「災害弱者の存在」と「家族の集合状況」に関連する事例が多かった．「災害弱者の存在」に関しては，高齢者が自身の避難が困難であることなどを理由に避難を拒否するケースが多く見られた．「家族の集合状況」に関しては，家族が迎えに来るからという理由で高齢者が避難を拒むケースが多く見られた．その他には，再入場（危険地域に再び入り込む），役割葛藤（立場上逃げるに逃げられない）や車を乗り捨てることができずに避難の呼びかけに従わなかった事例も見られた．

４．まとめ

本研究では，東日本大震災での津波避難に関する体験記 33 編の中から避難誘導時に説得を要した事例（体験談 86 人分）を抽出し，これらを「危険認知」「避難の決定・実行」「社会的要因」ごとに分類することを試みた．今後は，体験談の収集をさらに進めて，避難誘導時に説得を要した事例を蓄積するとともに，これらの事例を踏まえて，避難の説得に応じない者に対して短時間で説得する方策について，説得研究での知見 [43]を参考にしながら検討を進めていく予定である．

参考文献

1) 内閣府：東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会報告，2011.
2) 日本消防協会：平成 23 年度 新時代に対応した消防団運営～充実強化方策と消防団活動事例～；http://www.nissho-jyouhou.jp/nisshohp_img/jirei/h23shobodanjirei_all.pdf
3) 消防庁：東日本大震災における消防団員の活動等に関する調査結果＜団員向けアンケート＞；https://www.fdma.go.jp/singi_kento/kento/items/kento003_09_shiryo_07.pdf
4) 関谷直也：東日本大震災における 「避難」 の諸問題にみる日本の防災対策の陥穽，土木学会論文集 F6（安全問題），68 巻，2 号，p. I_1-I_11，2012.
5) 宇田川真之・他：平常時の避難行動意図の規定要因について，災害情報，No.15-1，pp.53-62，2017.
6) 東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会：平成 23 年東日本大震災における避難行動等に関する面接（住民）分析結果；http://www.bousai.go.jp/kaigirep/chousakai/tohokukyokun/7/pdf/1.pdf
7) 中村 功・中森広道：東日本大震災における津波避難―聞き取り調査から避難成否の要因を探る―，災害情報調査研究レポート，Vol.16，2012.

8) 藤本一雄・戸塚唯氏：東日本大震災被災者の後悔に関する証言に対するドキュメント分析から考える防災活動の目的，地域安全学会論文集，No.27，pp.1-11，2015.
9) 三陸河北新報社「石巻かほく」編集局：津波からの生還東日本大震災・石巻地方 100 人の証言，旬報社，2012.
10) やまもと民話の会：巨大津波: 語りつぐ－小さな町を呑みこんだ，小学館，2013.
11)「東日本大震災あの時，岩沼では･･･．」編集委員会：東日本大震災あの時，岩沼では･･･．－50 人の証言－，2012.
12) 唐丹の歴史を語る会：千年後への伝言－唐丹町の人々が伝えつなぐ大津波の記録，2013.
13) 赤浜公民館・東京大学大学院工学研究科都市デザイン研究室：大槌町赤浜地区住民　3.11 大地震直後の軌跡，2013.
14) IBC 岩手放送編：未来へ伝える 私の 3･11－語り継ぐ震災声の記録①，竹書房，2013.
15) IBC 岩手放送編：未来へ伝える 私の 3･11－語り継ぐ震災声の記録②，竹書房，2013.
16) 東京財団編：被災地の聞き書き 101，東京財団，2012.
17) 吉浜地区公民館：平成二十三年三月十一日 平成三陸大津波その時 私は･･　大船渡市三陸町吉浜の人々の記録，2012.
18) NHK 東日本大震災プロジェクト：証言記録東日本大震災，NHK 出版，2013.
19) NHK 東日本大震災プロジェクト：証言記録東日本大震災Ⅱ，NHK 出版，2014.
20) NHK 東日本大震災プロジェクト：証言記録東日本大震災Ⅲ，NHK 出版，2015.
21) 朝日新聞盛岡総局編：負けないで－3･11 その時そして，ツーワンライフ，2012.
22) 大西暢夫：津波の夜に－3･11 の記憶，小学館 2013.
23) 河北新報社：私が見た大津波，岩波書店，2013.
24) 釜石・東日本大震災を記録する会：東日本大震災・津波体験集 3･11 その時，私は 第一集，2012.
25) 釜石・東日本大震災を記録する会：東日本大震災・津波体験集 3･11 その時，私は 第二集，2013.
26) あの日のわたし編集委員会：あの日のわたし　東日本大震災 99 人の声，創栄出版，2011.
27) 赤坂憲雄 編：鎮魂と再生－東日本大震災・東北からの声 100，藤原書店，2012.
28) 金菱 清編：3.11 慟哭の記録―71 人が体感した大津波・原発・巨大地震，新曜社，2012.
29) 光と風キャンペーン実行委員会：語り継ぐいいおか津波－千葉県旭市東日本大震災被災者聞き取り調査記録集，2012.
30) 湊　雅義：それぞれの真実　それぞれの思い－被災者が直接語る 2011.3.11 岩手県山田町の記録，盛岡出版コミュニティー，2012.
31) 岩手県老人クラブ連合会：未来へ語り継ぐ証言　東日本大震災・大津波，2013.
32) 松村 直道：震災・避難所生活と地域防災力－北茨城市大津町の記録，東信堂，2012.
33) 赤崎地区自主防災組織連合会：赤崎地区 3.11 の記憶～東日本大震災から学ぶ～，2013.
34) 陸前高田市広田町自主防災会・震災記録製作委員会：広田の未来に光あれ－平成 23 年 3 月 11 日平成三陸大津波　広田町の記録，2013.
35) 仙台市七郷市民センター：あの時を忘れない－震災の記憶町内会長編，2013.
36) 日本消防協会編：消防団の闘い－3.11 東日本大震災－，近代消防社，2012.
37) 福島県警察本部：ふくしまに生きる ふくしまを守る－警察官と家族の手記－，福島県警察互助会，2012.
38) 山野肆朗：警察官の本分－いま明かす石巻署員がみた東日本大震災，総和社，2013.
39) 岩手県警察本部：使命 証言・岩手県警察の 3･11，岩手日報社，2013.
40) 南三陸消防署・亘理消防署・神戸市消防局・川井龍介：東日本大震災 消防隊員死闘の記，旬報社，2012.
41) 仙台市消防局：東日本大震災における消防活動記録誌，2012.
42) 中村 功：第６章　避難と情報，災害危機管理論入門（吉井博明・田中 淳編），弘文堂，2008.
43) 戸塚唯氏・深田 博己：脅威アピール説得における集合的防護動機モデルの検討，実験社会心理学研究，44 巻，1 号，p. 54-61，2005.